

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



あかりんご隊の挑戦 (上段: 名古屋大学学童保育所における出張実験の様子, 下段: ホームカミングデイの際の集合写真)
Challenge of Akaringo-Tai (Top: Experience of science experiment at the after-school day-care center of Nagoya University, Bottom: The group photo at the home coming day)

Contents

特集1 第9回ホームカミングデイ報告	2
The Events at The 9th Home-Coming Day	
特集2 あかりんご隊の挑戦	4
Challenge of Akaringo-Tai	
活躍する会員たち	6
NUAL People in Action	

同窓会ニュース	10
NUAL News	
大学ニュース	15
Nagoya University News	
事務局からのお知らせ	16
From the NUAL Office	

今号では、2013年10月に行われた第9回ホームカミングデイの様と、名古屋大学の理系女子学生で構成され、名大でのリケジョ同士の交流を広げるあかりんご隊の活動についてご紹介します。

In this volume, we first report the events at the 9th home-coming day. Next, we will introduce the activity of Akaringo-Tai (The red apple group). Akaringo-Tai consists of female students in natural sincere filed and their mission is to promote the community of female students studying natural science.

第9回ホームカミングデイ報告

The Events at The 9th Home-Coming Day

名古屋大学全学同窓会代表幹事
ホームカミングデイ・ディレクター
伊藤 義人



平成25年10月19日（土）に、第9回ホームカミングデイが、「地域と大学で考える ^{いのち} 生命の科学」をテーマとして行われました。名古屋大学のホームカミングデイは、大学主催で卒業生・修了生、地域住民や学生の保護者を対象にしています。今年は、台風が多くて天候が心配でした。当日、朝起きたときは、雨でしたが開始時には、薄明かりの見える曇りで何とか無事に開催できました。

いつものように最も目玉になった行事は、豊田講堂で行われた「名古屋大学の集い」でした。招待している10年ごとの周年記念の同窓生の申し込みが600名を越えました。平成19年名古屋大学教育学部卒業の夏目みな美さん（中部日本放送アナウンサー）の司会で、第1部は、濱口総長と豊田全学同窓会会長の挨拶の後、ホームカミングデイ・ディレクター兼全学同窓会代表幹事として、私から簡単にホームカミングデイの趣旨と実施工事および全学同窓会の近況を報告しました。特に、3つの海外支部の設立について報告しました。

この後で、国際交流貢献顕彰授与式が行われました。全学同窓会モンゴル支部長のアルタンツォヤさん、上海财经大学法学の准教授の洪（ホン）さんおよびインドネシア・パジャ

ジャラン大学文学研究科長のナンダンさんが受賞され、総長から賞状が、豊田会長からレーザーで豊田講堂を内部に立体彫刻したクリスタルの副賞が授与されました。

さらに、今年は特別に、総長特別表彰が行われ、鈴木亜由子さん（陸上部、経済学部4年生）が表彰されました。ロシア・カザンで開催された平成25年7月7日（日）の女子10000mで、32分54秒17の好タイムで見事優勝（金メダル）、5000mで3位（銅メダル）になったことに対するものでした。

その後、名古屋大学基金について、国枝副総長・理事から説明があり、この基金の果実で奨学金をもらっている2人のGlobal30の学部留学生のお礼の挨拶がありました。立派な心温まる日本語での挨拶でした。是非とも、名古屋大学基金にご協力をいただきたいと思います。

第2部は、佐渡裕さんが創設時から芸術監督をしている兵庫芸術文化センター管弦楽団のコンサートが行われました。通常は、名フィルと呼ぶことにしていましたが、今回はスケジュールが合わないのので、このような結果になりました。指揮は、岩村力さんでした。レオノーレ序曲（ベートーベン）に始まり、その後、世界的に有名な諏訪内晶子さんにより、ショスタコビッチのヴァイオリン協奏曲第2番が演奏されました。もう少し、皆が知っている有名でメロディーのきれいな曲をと要請しましたが、諏訪内さんの強い希望でこの曲に決まりました。きれいなバイオリンの音色で大変な力演でレベルの高い演奏でした。しかし、初めてこの曲を聴く人が大半で、聴衆の反応は微妙で、拍手で1回だけ舞台に呼び戻しただけでした。後半は、今度は逆によく知られている交響曲第41番ジュピター（K551、モーツァルト）が熟演されました。アンコールは、モーツァルト

のディヴェルティメント（K334）の第1楽章でしたが、力が抜けてよい出来だと好評でした。

午前中のシンポジオンでは、理学研究科とトランスフォーマティブ生命分子研究所による学術講演会「世界を変えるバイオ分子」が行われました。ノーベル賞受賞学者の下村脩先生と研究所の伊丹健一郎所長と吉村崇教授の講演があり大変好評でした。豊田会長と私も下村先生の講演は聴きました。

それ以外にも例年と同じように各種の講演会、スーパーコンピュータや超高压電子顕微鏡などの施設公開、グランパスコーチによるサッカー教室なども行われました。また、附属図書館の本のリユース市や農学部による農産物販売は、例年通り多くの参加者を集めていました。「名大キャンパス雑木林の生物多様性を観察しよう」という行事と名大ウォーキ



名古屋大学の集い（ガイドブック）



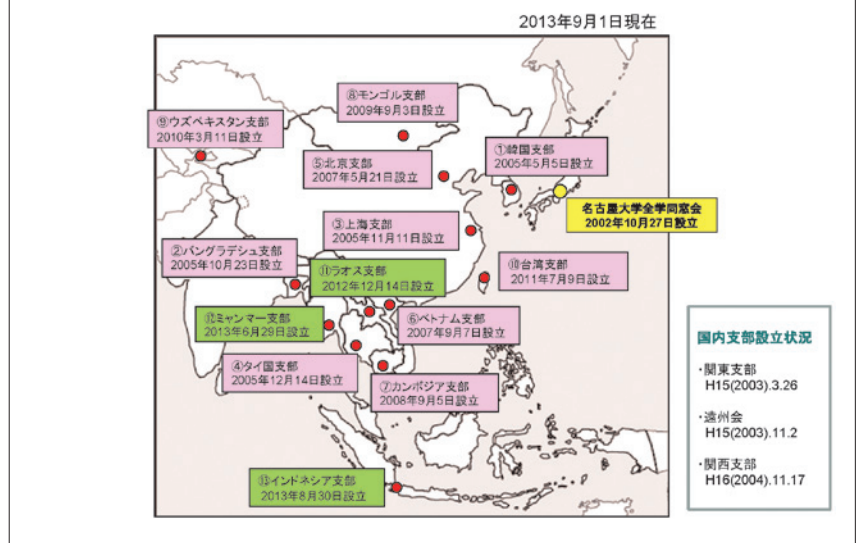
全学同窓会海外支部歓迎会

ングツアーも多くの参加者を得て好評でした。

なお、ホームカミング日に合わせて招待したラオスとミャンマーの海外支部長、国際交流貢献顕彰の2名（インドネシアとモンゴル）と、下村脩（ノーベル賞学者）特別教授ご夫妻を招待しての全学同窓会主催の歓迎会を、前日の18日（金）に、ES館のシェ・ジローで行いました。豊田会長、濱口総長や理事・副総長などの方々もご参加いただき、実のある交流ができました。

また、ホームカミング日の午前中に、全学同窓会の評議員会と懇談会を豊田講堂会議室で開催し、大学への寄付講義（前後期のキャリア形成論）、大学支援の公募事業、年2回発行のNewsletterなどの活動報告をしました。同窓会カード（名古屋大学カード）も、順調に伸びており、約10,000枚近くのカードを発行して、年間700万円以上の収入があり、大学支援の原資となっています。今後とも大学支援と全学同窓会の活動支援のため、年会費永久無料の名古屋大学カードに、ご加入いただければと思います。

名古屋大学全学同窓会 海外支部設立状況



なお、全学同窓会副会長で関東支部支部長の丹羽宇一郎氏（前駐中国日本大使）は、この日、総長から名誉博士号を授与されました。

あかりんご隊の挑戦 Challenge of Akaringo-Tai

南 明希（あかりんご隊 名古屋大学大学院理学研究科修士課程）

名古屋大学の理系女子学生で構成され、リケジョ同士の交流を広げるあかりんご隊が活躍しています。平成24年度名古屋大学総長顕彰を受賞した、様々な取り組みの様子をご紹介します。

There is a group called Akaringo-Tai (The red apple group), which consists of female students in natural science filed and trying to promote the community of female students studying natural science. We introduced their activities including that which was received the publicly honor of Nagoya University president in 2012.

あかりんご隊とは

あかりんご隊は名古屋大学の理系女子学生で構成されるコミュニティです。名古屋大学の男女共同参画室の支援を受けて活動しています。名古屋大学における理学部女子学生の占める割合はまだ低く、研究室に配属されたら女子学生が自分一人、という状況は珍しくありません。理系の分野において少数派になりがちな女子学生たちの、もっと学生生活を充実させたいという思いから2007年に結成されました。「あかりんご」という名前の由来は創設した学生二名の当時のニックネームから。現在は20名程の女子学生が所属しており、学部・学年の壁を越えてリケジョ同士の交流を深めています。

あかりんご隊の活動

活動内容は多岐に渡ります。どの活動にも常にメンバーの思いが反映され、「理系女子が交流できる場が欲しい」、「子

どもたちに科学のおもしろさを伝えたい」といった一人ひとりのやりたいことを実現できる機会となっています。具体的には、学内の理系女子の交流の促進を目的としたエンカレッジ交流会を開催したり、ホームカミングデイや名古屋市科学館で開催される科学の祭典で子どもや一般向けの出張実験を行ったりしています。また、オープンキャンパスでは理系進学を考える女子中高生に向けたセミナーを開催することで女子中高生たちに理系の魅力を伝えています。一年を通して多くのイベントを企画・運営するあかりんご隊ですが、メンバー同士の交流も大切にしています。月に一度「ランチ会」を開催して、昼食を持ち寄って楽しく交流しています。同じ理系女子の友人や博士課程への進学を選択した先輩と会話をすることは、女子学生の少ない理系学部にも所属するメンバーにとって気軽に日頃の悩みや進路について相談し合える場ともなっています。



月に一度開かれるランチ会の様子



科学の祭典で子どもたちの前で実験を披露

挑戦の2012年

2012年はあかりんご隊にとってチャレンジ精神に溢れた一年でした。あかりんご隊の代表メンバー三名が3月に行われた内閣府男女共同参画局主催「第一回女性の活躍促進プラン学生コンペティション」に参加し、審査員から次点の評価を得ました。本コンペティションには全国から29チームのエントリーがあり、審査は二段階で行われました。東京で行われた本選には、第一次審査を通過した9チームが臨み、経済評論家や学識経験者からなる審査員と観客を前に、課題である「女性の活躍を促進する上で企業が抱える問題点への解決策」を発表しました。審査員からは、あかりんご隊の提案がもつ、女性の活躍を応援する斬新なアイデアと、問題を構造化しそこから解決策を見いだしていく論理的な思考力を高く評価されました。あかりんご隊に最高点を付けたという審



エンカレッジ交流会で交流を深めた参加者とともに



内閣府主催女性の活躍促進プラン学生コンペティションの様子



理工系人の人生ガイドセミナーの様子

査員の講評にも明らかなおと、優勝こそ逃したものの、優秀な成績を残すことができました。

さらに、このコンペティションにおける成績と、子どもたちに科学のおもしろさを伝える出張実験や女子中高生に向けての進路相談、理系女子学生の交流イベント開催といった若い世代や理系女子を支える活動が高く評価され、平成二十四年度の名古屋大学総長顕彰を受賞しました。この受賞を機に、メンバーは改めて学内外におけるあかりんご隊の使命を認識し、それ以降私たちの活動はますます広がりを見せています。

今後の活動

内閣府主催のコンペティションに参加することで、男性も女性もともに幸せになれる生き方とは何かについて深く考えたり、ディスカッションをしたりする機会を得ました。この経験をふまえ、昨年は新たな試みとして、女子学生だけでなく男子学生も

参加の対象とした企画である「理工系人の人生ガイドセミナー」を開催しました。セミナーでは、講師をお願いした工学研究科の先生方に、ご自身の進路決定の際の体験談や、仕事と家庭の両立などについて講演していただきました。会場には、男子学生の姿も多く見られ、質疑応答も活発に行われました。参加者アンケートの結果からも、男女共同参画というテーマを身近なところから考える手応えを感じるとともに、男性も女性もそれぞれの能力を最大限に発揮し、互いに協力しあうことで、社会の発展に寄与できるとの思いを強くしました。今後は、新たな活動への第一歩を踏み出した昨年の経験を活かしつつ、結成以来あかりんご隊に受け継がれるチャレンジ精神を十二分に発揮することで、男性も女性もともに輝ける環境づくりに向けて、議論する場の提供や情報発信にさらに積極的に取り組んでいきたいと考えています。



手でりんごマークをつくる



あかりんご隊ポロシャツを着て集合写真

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第21回は、大学院国際開発研究科在学中に愛知万博での映画製作プロデューサーを務められ、博士学位取得後は金城学院大学でご活躍の佐藤久美さんと、大学院多元数理科学研究科で博士学位を取得され、現在愛知県立大学で確率論の分野でご活躍の Si Si さんにご登場いただきます。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. In volume 21, we will first introduce Dr. Kumi Sato, an alumna (graduate school of international development) who made the film as a producer at Aichi international envision and is currently working at Kinjo Gakuin University. Then, we will introduce Dr. Si Si, an alumna (graduate school of mathematics) who is currently working in the field of probability theory at Aichi Prefectural University.

佐藤 久美さん



■略歴

- 1987年～ 英文雑誌 AVENUES を編集・発行。
- 1996年～ 名古屋市内の大学の非常勤講師となる。
- 2001年 名古屋大学大学院国際開発研究科 (GSID) 修士課程に入学。
- 2003年 GSID 博士課程に入学。
- 2005年 「愛知万博一市町村一國フレンドシップ記録映画製作事業」プロデューサーを務める。
- 2009年 GSID 単位取得満期退学。博士号 (学術) 取得。
- 2012年～ 金城学院大学国際情報学部教授となる。

2001年4月に名古屋大学大学院国際開発研究科 (GSID) 修士課程に入学し、後期課程を修了するまで、一年間の休学をはさんで名古屋大学には八年間在籍いたしました。

私は、名古屋市内の大学を卒業以来、結婚し子育てをしながら欧米人スタッフ達とともに中部地域の歴史や伝統、生活などを紹介する英文雑誌の編集・発行をしており、三島由紀夫や川端康成などによる日本の文学を研究しているアメリカ人、神道のアメリカ人研究者、日本の古い建築物をテーマに作品を制作しているイギリス人芸術家、日本で映画製作を行っているイギリス人監督など、私よりも日本の文化や歴史などに精通している彼ら

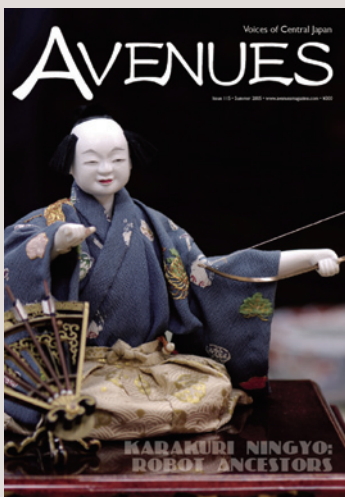
との仕事は、日々新しい発見のあるものでした。しかしながら、編集長の立場になってみると、実は自分自身が日本についての知識がないことに気が付かされる日々でもありました。同時に、日本からの情報発信はまだ十分ではないことを実感いたしました。

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災

では、当時兵庫県に居住していた多くの外国人住民が困難な状況に置かれていたことを知りました。日本語で出される災害情報や生活情報を理解することが出来ず、災害弱者となっていたのです。大震災発生後に取材で神戸を訪れましたが、避難所となった小学校で老人や子ども達が寒い中で震えながら食糧の配給を待っている姿に衝撃を受けました。そのような中、日本語の情報提示しかなされてない避難所には自分達は受け入れてもらえないと考え、危険の残る自宅に戻っていた外国人も多かったのです。その折に、緊急時の多言語での情報提供の必要性を強く意識しました。

「学びたい」という思いが強くなり、GSID (国際協力専攻) に入学しました。30カ国以上から来ている外国人留学生達とともに学ぶ環境はとても新鮮で、一気に世界がひろがったようでした。研修旅行ではインドネシアや中国、ラオスなどの学生達と夜更けまでまちづくりや将来について語りあいました。論文が書けなくてくじけそうになったときも、若い留学生達が院生室で熱心に勉強している姿を見て、私も頑張らなくてはと気を引き締めたものです。

神戸を取材した折の体験を基にして、研究論文のテーマは、「多文化共生」を国の施策として掲げている日本において、多言語での情報提供が必要であることを論じるものとしたしました。阪神・淡路大震災の折に外国人にはどのような情報が必要であったのかを調べる傍ら、実際に役立つものを構築するために、情報や地理学を専門にする名古屋大学の教授たちと、防災情報を多言語に翻訳するシステムを開発し、愛知県のウェブサイトに掲載



英文雑誌アベニューズ 表紙 (2005年夏号)

Si Siさん



■略歴

1970年12月 ヤンゴン大学修士課程卒業、同大学講師
1983年 4月 名古屋大学研究生
1985年 4月 名古屋大学理学部博士課程後期課程入学（数学専攻）
1988年 6月 理学博士（名古屋大学）
1988年 6月 帰国 ヤンゴン大学助教授
1994年 1月 江南女子短大助教授
1998年 4月 愛知県立大学准教授・教授（現在）

■専門 数学・確率論、特にホワイトノイズ解析

私はミャンマー（旧ビルマ）出身で、ヤンゴン大学を卒業し、数学科の講師をしていました。1983年4月に博士の学位取得のため、出張で名古屋大学に来ました。当時、研究のための外国出張は容易ではなく、ミャンマー文部省が全国の大学教員から試験でごく少数の者を選んでいました。私は選ばれて日本の文部省留学生として名古屋大学の数学科に来ることができました。

指導教官は飛田先生ということで、早速お目にかかりましたが、温厚な先生のように、安心しました。ところが、はじめの言語センターでの日本語研修の期間から数学の勉強が始まり、その厳しい指導に泣かされました。その頃、事務室に小崎和子さんや谷川澄子さんが居て励ましてもらったことを思い出します。

博士課程での研究テーマはLévyのブラウン運動でしたが、そのマルコフ性の研究のためRiccatiの微分方程式が出てきました。苦勞して、課題に適する特殊解を見つけた時の嬉しさは格別で、飛田先生に評価してもらったのはこれが始めてでした。さらにこの方向の研究を続けましたが、1987年にドイツのBielefeld大学のStreit教授が私の研究に興味を持たれ、そこで国際学会に招待して頂き研究報告をすることができました。大変光栄でした。またMunich大学のImkeller教授にも招かれてコロキウムで講演しました。そのとき名古屋大学での研究課題を聞かれ、Lévyのブラウン運動と答えたら、びっくりしていました。それで、Lévyの論文は難解で有名なことを始めて認識しました。

1988年夏、学位記を持って母校のヤンゴン大学にもどりました。しかし、期待に反して講義やその他の義務も多く、とても研究どころではありませんでした。この事情や私の留学生時代のことなどご存じの、元名古屋大学学長の芦田先生にお心使い頂き、研究が続けられるようにと、その当時、先生が理事長さんであった江南女子短大に助教授としてお招き下さいました。これは、名古屋大学の留学生として勉強できたこととあわせて、私にとって、幸運な、そして大きな転換期でありました。

ここには4年間お世話になりました。短い期間でしたが、研究と教育の二面で充実した期間でした。アメリカのLouisiana州立大学、Tulane大学、イタリアのRoma大学、香港の科学技術大学に招待され研究発表することができました。数学についての学内教育は勿論ですが、海外研修を担当して、ヨーロッパ諸国やカナダへと引率旅行をしました。女子学生ばかりですので、皆親しくなり、たのしく有意義な研修期間を過ごすことができました。

1998年に愛知県立大学に情報科学部が創設され、ここに転勤し、現在に至っています。ここでも研究と教育に大変忙しい日々を過ごしました。情報理論は私の専門の確率論と関係が深いと思いましたが、やはり教育面では大変な努力が必要でした。一般教育科目の中での数学の重要性を、情報を専門とする学生さんに説得することには特別な工夫が必要でした。詳しくはここには書きませんが。

研究面では、ふる里の名古屋大学が近く、ここに出



International Workshop on IDAQP 愛知県立大学にて 2013年1月7～9日



1988年理学博士の学位を取得

入りさせて頂き、私の研究が大いに促進されたのは嬉しいことでした。Roma 大学の Volterra 研究所と具体的なテーマで研究交流を続ける協定にまでこぎつけました。私の研究テーマも最新のホワイトノイズ解析にしほり、欧米の研究者との交流が増えて、まさに東奔西走(西奔西走かも?)する忙しさでしたが、成果は論文の他に著書として(単著1冊、共著2冊)残すことができました。

特記したいことは、昨年1月県立大学を会場として、国際研究会を組織委員長として開催したことです。この会のテーマはホワイトノイズ、量子情報、統計でしたが、外国から世界のリーダー達の参加を得、国内参加者も併せて、大変充実した研究会となり、同時に、この地区の先駆的研究の紹介にもなりました。これに続く本年3月のシンガポールの国際研究会では、組織副委員長を務め、いま準備で忙しくしています。ここでは、私の最近の研究成果も発表します。内容は、加法過程の分解に、新しく重複度の概念が必要なことを発見し、その役割を明らかにしたことです。学位論文と今回の結果の二つは、厳しい飛田先生も高く評価して下さいました。

県立大学での期間、いくらか社会貢献をすることができたことにも満足しています。

これまで、日本で、特に名古屋とその近くで、約25年過ごしましたが、振り返るとお世話になった人達ばかりが思い出されます。多くの学生さん達からもよい思い出をプレゼントされました。感謝の気持ちで一杯です。

まもなく、県立大学を定年退職し、ミャンマーへ帰りますが、今後も日本との交流に尽くしたいと思ひますし、特に個人的に親しくしていただいた方々とは、これからもおつきあいをお願いしたいと思います。



理学部数学科の事務の皆さんと、帰国前の記念に

大学支援事業目録贈呈

11月8日（金）、平成25年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成25年度第1回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、6件の応募総数から、表の4件が採択されました。事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されています。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

平成25年度第1回 採択事業

申請者所属・氏名		事業名
エトピア科学研究所教授	岩田 聡	「先輩と語る会」の開催
工学部機械・航空工学科3年	山口 涼	TEDxNU
理学部生命理学科3年	金澤 空木	名古屋大学交響楽団×愛知県立芸術大学音楽学部「オーケストラ・プロジェクト」
国際交流協力推進本部特任講師	渡部 留美	名古屋大学国際化推進のための教職員研修



採択事業代表者の方々

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、千代田区神保町の「学士会館」内名古屋大学東京連絡所で、支部としての活動をしている。幹事会を開催し、丹羽支部長や本部より伊藤代表幹事が出席、名古屋大学の最新情報、ホームカミングデイの状況や、アジアへ展開する拠点への貢献・交流も検討しております。

日本法センターには、西村あさひ法律事務所鬼頭弁護士の寄付講座も続けられており、アジアで活躍する同窓生や、東京に来た留学卒業生、大使館にいる同窓生等とコンタクトにより各国との交流を目指しています。

学士会との連携強化は、丹羽支部長が理事、片岡事



12月10日の幹事会 ― 丹羽支部長、伊藤代表幹事他

務局長が会員増強委員として参加する等、七大戦だけでなく、名古屋等各地区で学士会交流会の開催実現に努力しています。

関東支部の情報を知ってもらうために、全学同窓会のホームページの中に、関東支部の欄を作る検討もしております。

本年は、このホームページ等を活用して、同窓生の状況・各部局同窓生会の状況等を見られるようにし、交流が深まるよう努力する事にしております。

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造

E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名大遠州会では今年の第10回総会と第19回同窓会を以下の日時に開催します。

日時：平成26年6月14日（土）

総会は18:00～18:45、同窓会は18:55～20:50

場所：オークラアクティシティホテル浜松

■連絡先 名大遠州会事務局長 原田憲道

E-mail enshuhrd@yahoo.co.jp

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、下記の日程で、第9回総会、懇親会を開催いたします。今回の講演は未定ですが、大学からは濱口総長、伊藤代表幹事にもご出席いただきます。多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：平成26年5月17日（土）15:00-19:00

総会 濱口総長ご挨拶

伊藤代表幹事会務報告

講演者 福和伸夫（名古屋大学減災連携研究センター長・教授）

題目 「予測できる災害・南海トラフ巨大地震を総力で凌ぐ」

講演者 濱口道成（名古屋大学総長）

題目 「名古屋大学の国際化と人材育成
一勇気ある人材は育成できるか」

懇親会 立食形式

場所：中央電気倶楽部

大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

講演内容、参加費等の詳細については、追って関西在

住会員の皆さんには個別にご案内いたします。また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたします。

■連絡先 関西支部事務局長 脇田喜智夫

御所南法律事務所 TEL 075-253-0777

E-mail office@goshominami.jp

法学部「名法会」

平成25年度 法学部・名法会が開催される

平成25年10月5日（土）11:00～13:00、CALEフォーラムにて昭和30年卒（第5回）の同窓生を中心とした同期会（名法会）が開催され、16名が参加しました。この会は毎年この時期に行われているものです。

塚田健雄氏の司会のもと、まず最初に、中野富夫准教授から挨拶と名古屋大学の近況についての説明がありました。その後、本学名誉教授で公正取引委員会委員の浜田道代氏による「公正取引委員会の最近の活動状況」と題してのミニ講義がありました。



浜田公正取引委員会委員（本学名誉教授）によるミニ講義の様子



出席者全員による記念撮影

公正取引委員会の歴史、各国の独占禁止法との比較、最近の事例等についての説明があり、参加の同窓生は興味深く耳を傾けられていました。記念撮影の後で、今回一番遠方からの参加者ということで、西東京市から参加された、稲垣幸男氏の乾杯の音頭で懇親会に移りました。乾杯のあいさつで、卒業式にまつわるエピソードも披露されて、わきあいあい雰囲気の中で会は進行しました。

話は尽きませんでしたが、塚田氏の閉会の辞で今回の会を終了しました。名法会の幹事は毎年各ゼミが交代でつとめますが、今年は溪内ゼミが担当しました。

■連絡先

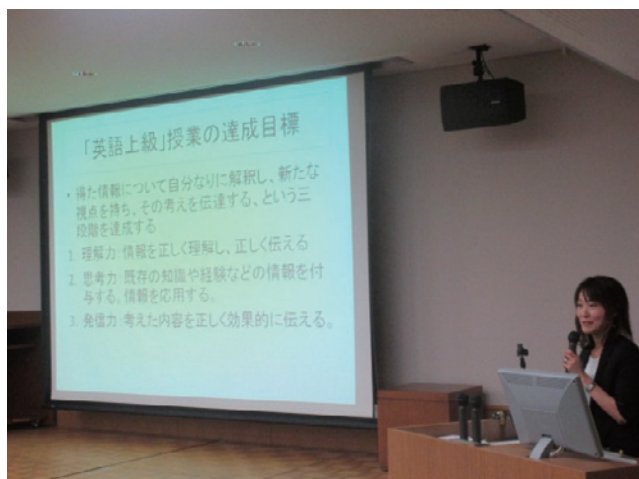
dosokai@law.nagoya-u.ac.jp

国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科同窓会では、2013年10月19日(土)のホームカミングデイに同窓会総会および修了生の博士論



国際言語文化研究科同窓会会長挨拶



公開講座講演1



公開講座講演2



ティーパーティー

文発表会、公開講座を開催しました。博士論文発表会では、坂本麻裕子氏（早稲田大学オープン教育センター助手）による「修身教育の形成期：寓話・童話・昔話における〈子ども〉の役割」、方光鋭氏（大連理工大学講師）による「中国清末民初期の修身教科書と日本」が発表されました。続く公開講座では「名大の英語教育の現状」をテーマに、尾関修治教授が「英語新カリキュラムのねらいと現状」、村尾玲美准教授が「理解力・思考力・発信力を高める英語授業の工夫」、稲垣俊史准教授が「英語力がつく授業を目指して——教員の実践——」、涌井隆教授が「ネットビデオの利用法」について講演を行いました。公開講座の終了後には修了生、在學生、教員を交えてティーパーティーで交流しました。

■連絡先 杉村 泰

E-mail sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

全学同窓会文庫「名大ゆかりコレクション」 及び「ゆかり交流ラウンジ」の設置

申請代表者：佐野 充
(附属図書館長)

名古屋大学にゆかりのある著名人の著書164冊を助成金により購入し、「全学同窓会文庫 名大ゆかりコレクション」を「ゆかり交流ラウンジ」に整備した。

このコレクションは、全学同窓生、名古屋大学学生、教職員はもとより、一般市民の利用者にも公開提供し、名古屋大学にゆかりのある方々の業績、活躍を広く紹介するとともに、この「ゆかり交流ラウンジ」を、本を中心とした交流の場として活用を図る。



AC21国際スクーリング

申請代表者：渡辺芳人
(AC21事務局長・理事 (国際担当))

国際的な学術ネットワーク構築を目的として創設され、本学に事務局を置く国際学術コンソーシアム「Academic Consortium 21 (AC21)」(現在、メンバー大学は10カ国19大学)では、5月31日～6月4日にかけて、タイ王国・バンコクにあるチュラロンコン大学とカセサート大学にて、AC21国際スクーリングを開催しました。本事業は、メンバー大学である両大学と本学が、AC21の活動の幅をさらに広げる試みとして共催した新事業です。全学同窓会から、財政的支援をいただき、本学からは5名の大学院生を本事業に派遣することができました。

本事業は、1) 地球規模の課題に関し、科学技術分野における最先端の学術研究について学ぶ機会を提供することにより、大学院生の知的好奇心を刺激し、能力強化を図ること、2) 国連アカデミック・インパクトに加盟する国際的な組織の一つとして、メンバー国や開催国タイ周辺の途上国における高等教育の一層の発展というAC21の学術的な国際貢献を図ること、を主目的として開催されました。

メインテーマを「持続可能な未来のためのグリーンサイエンスと技術」、サブテーマを「グリーンモビリティとエネルギー」及び「農学と食糧生産」とし、メンバー大学（卒業生含む）から、それぞれの専門分野におけるトップレベルの研究者・ビジネスリーダーを基調講演者（5名）および講師（15名）として招聘しました。名古屋大学関係者として、ノーベル化学賞受賞者の野依良治名古屋大学特別教授・理化学研究所理事長や、初代「プリウス」の開発責任者である内山田竹志トヨタ自動車株式会社代表取締役会長（スクーリング開催時は副会長）のお二人に基調講演をしていただくことができました。お二人のお話を合わせて拝聴できる貴重な機会を提供できたと思います。

学生の参加者は15カ国81名で、メンバー大学やタイ周辺諸

国のメンバー大学以外の大学、そしてタイ周辺諸国からチュラロンコン大学・カセサート大学に留学している博士課程（前期課程）以上の大学院生が参加しました。本学からは、濱口総長や渡辺理事を始めとする教職員13名も参加しました。

最先端の学術研究に焦点をあてた基調講演・講義では、学生達から、質問や意見が積極的に出され、活発な議論が繰り広げられました。また学生は、グループに分かれてグループディスカッションを行い、講演や講義を受けて、自分達が重要だと考える地球規模の課題とその解決策について討議を重ね、最終日にグループ発表を行いました。

これらに加えて、バンコク市内の散策ツアー、アジアにおけるトヨタの環境モデル工場として位置付けられているトヨタ・モーター・タイランド社の工場見学、交流会が開催されるなど、講義やグループワーク以外のプログラムも充実したものとなりました。

開講式や基調講演・講義、交流会には、本事業を実施するにあたって、後援名義提供をいただいた後援機関（文部科学省 G30プロジェクト、UNESCO、国際協力機構、日本学術振興会）やご寄附・ご助成をいただいた協賛企業・団体の方々にもご参加いただき、複数国かつ幅広い層（政策立案者、企業の実務家、研究者、学生）の知的ネットワーク拡大の場を提供することもできました。

参加学生からは、「短期間で数多くの最先端の研究成果について学ぶ貴重な機会をいただき、大変刺激を受けた」とか「海外の学生とのネットワークができた」などの声が届いています。

最後に、本事業に本学の学生を派遣するにあたり財政的支援をいただいた、全学同窓会と関係者の皆様に、深くお礼を申し上げます。



開講式での記念撮影



基調講演での質疑応答の様子



学生グループディスカッションの様子



本学からの参加学生

TEDxNagoyaU を開催

TEDxNagoyaU が、11月24日(日)、ES 総合館において開催されました。TED とは、アメリカ発のプレゼンテーションカンファレンスの事であり、講演者は18分以内という短い時間の中で自身のアイデアを伝えることが求められます。その影響力の高さから、現在世界で10億の人が注目するイベントだといわれています。TEDxとは、「ideas worth spreading (広



集合写真

める価値のあるアイデアを広める)」という TED の精神のもとに世界各地で発足し、独自に運営されているイベントです。アメリカの本部にライセンスを申請し、認可された上で運営を行い、TEDx 地名として開催されています。今回、本学の学生を中心とした実行委員によって主催され、本学の後援や、名古屋大学全学同窓会の支援のもと、本学で開催となりました。

開催にあたって、テーマを「Bridge the Gap」と定め、「様々な分野の最先端と無限の可能性を秘めた学生が集まる大学という場で、学生と社会人之间にある縦の Gap (ギャップ) を埋める」、「普段触れることのない分野に接することで、そこから新たなアイデアを生み出す疑似体験を通じ、各々の専門分野間に存在する横の Gap を埋める」といった2つの観点から、研究機関であり教育機関でもある大学のあるべき姿を提案していくことを目指しました。

開催当日は、9名の社会人、2名の学生、1組のパフォーマーが登壇し、選考された100名の観客と魅力的な時間を共有しました。

(名大トピックス No. 248より)

同窓会行事カレンダー

全学及び部局同窓会行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○名大遠州会第10回総会・第19回同窓会

日 時：2014年6月14日(土)

総 会 18:00~18:45、

同窓会 18:55~20:50

場 所：オークラアクティビティホテル浜松

連絡先：名大遠州会事務局長 原田憲道

E-mail: ensuhurd@yahoo.co.jp

講演者 福和伸夫

(名古屋大学減災連携研究センター長・教授)

題 目 「予測できる災害・南海トラフ巨大地震を総力で凌ぐ」

講演者 濱口道成 (名古屋大学総長)

題 目 「名古屋大学の国際化と人材育成
—勇気ある人材は育成できるか—」

懇親会 立食形式

場 所：中央電気倶楽部

大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

連絡先：関西支部事務局長 脇田喜智夫

御所南法律事務所 TEL: 075-253-0777

E-mail: office@goshominami.jp

○関西支部第9回総会・懇親会

日 時：平成26年5月17日(土) 15:00~19:00

総 会 濱口総長ご挨拶

伊藤代表幹事ご報告

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」でつながる大学支援



名古屋大学カード

加入者は、10,000名を超えています。

年会費永年無料！ 家族会員（1名）も無料です。



【新登場】

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エクスプレス®・カード 誕生！

年会費 本会員/20,000円（税別）

家族会員/1名様は無料、2人目より1名様につき3,000円（税別）

本カードの誕生を記念した特別なキャンペーンをご用意しております。

名古屋大学全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化、名古屋大学支援の充実を目指して、「MUFG 名古屋大学カード」（年会費無料のゴールドカード）を発行しております。豊田講堂をデザインしたカードは、同窓生としてのアイデンティティの証です。ぜひこの機会にご入会ください。

- カード利用時に、利用額に応じて全学同窓会に還元され、大学支援の原資になります（ご利用者の負担はありません）日常のショッピングでのカード利用が、母校の恩師や後輩への支援に結びつきます。
- OB 企業等による優待サービス（木工家具、宝石、ビジネス週刊誌、旅行などの優待価格）もごございます。

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エクスプレス®・カードはアメリカン・エクスプレスのライセンスに基づき三菱 UFJ ニコス株式会社が発行・運営しております。「アメリカン・エクスプレス」はアメリカン・エクスプレスの登録商標です。

詳しくは、全学同窓会 Web ページをご覧ください。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集後記

今号では、恒例となったホームカミングデーでの同窓会関連行事の様子に加え、今話題のリケジョを名大で盛り上げるあかりんご隊のご活躍の様子をお話いただきました。今後も多彩な話題をとりあげたいと思っております。卒業生の皆様方の変わらぬご支援どうぞよろしく願いいたします。
(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.21 平成 26 (2014) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会